TOEIC®
スピーキングテスト/
ライティングテスト

TOEIC®スピーキングテスト/ライティングテスト 活用リポート 学校編

北陸先端科学技術大学院大学

北陸先端科学技術大学院大学（以下JAIST）では、2008年3月、TOEIC®スピーキングテスト/ライティングテスト（以下TOEIC SWテスト）を学生に受験させました。1990年に設立されたJAISTは、科学技術の分野で世界最高水準の研究と教育を行うことを目的とした、日本で初めての国立の独立大学院大学で、学生の約18%、教授陣の約11%が外国人という国際色豊かな学校です。TOEIC SWテストの実施背景や今後の展望を、科学技術英語教育プログラム責任者で同大学特別学長顧問の牧島亮男（まきしまあきお）特任教授とテクニカル・コミュニケーション担当のジャン・クリストフ・テリヨン准教授に伺いました。

牧島教授

テリヨン准教授

――貴校で実施されている科学技術英語教育プログラムの概要を教えてください。

牧島教授：本プログラムは2005年、文部科学省が推進している「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」のテーマの1つである「仕事で英語が使える日本人の育成」に選定され、その翌年からスタートしました。

プログラムの到達目標は、「最先端科学技術に関する国際会議等における、自己アピール能力」、「ネイティブに伍した、実践的科学技術論文の作成能力」、「科学技術に関連した企業での、外国人を含めたグループにおけるテクニカルマネージメント能力」の3つの能力を学生に習得させることです。

専門分野の教員と英語教育専門のネイティブスピーカー教員から、論文執筆やプレゼンテーションに必要なスキルを学ぶ「チュータリングサービス」、より積極的なアピール方法を学ぶ「インタラクションゼミ」、「ユビキタス自主学習システム」など、さまざまなタイプの学習機会を提供し、各学生のニーズにあった形で英語学習に取り組めるようになっています。

――TOEICテストはどのように活用されていますか。

テリヨン准教授：本学では、新学期が始まる4月、毎年、新入生を対象にTOEICテストをプレースメントテストとして実施し、3つの習熟度別クラスに分け、指導しています。

上級コース TOEIC665～990	・テクニカルライティング ・スペシャルテクニカルドキュメント ・リサーチコミュニケーション
中級コース TOEIC545～660	・グラフィックアンドオーラル プレゼンテーション ・テクニカルドキュメント
初級コース ～TOEIC540	・ベーシックイングリッシュ ・ベーシックライティングスキル ・イングリッシュカンバセーション ・イングリッシュディスカッション

また、学生の英語学習へのモチベーション維持を目的として、プレースメントテスト以外にも、年3回、TOEICテストを受験できる環境を提供しています。

Copyright © 2008 by Educational Testing Service. All rights reserved. ETS, the ETS logos and TOEIC are registered trademarks of Educational Testing Service in the United States of America and other countries throughout the world.

――今回なぜJAISTでTOEIC SWテストを実施されたのでしょうか。

牧島教授:学生本人および我々教員が、学生のスピーキング・ライティングレベルを客観的かつ正確に把握するためです。学生には、現在の自分の力を確認し、仕事で使える英語力を身に付けるべく奮励努力してほしいと考えています。

テリヨン准教授:英語力を伸ばすためには、本学のプログラムによるコースを受講すること、そして、TOEICテストやTOEIC SWテストなどを受けることが非常に重要です。英語は、理系学生が将来、国際的に活躍していく上で欠かすことのできないコミュニケーションツールです。高い評価に値する論文を書いても、英語が原因で審査を通過しないというケースも見受けられますからね。コースを受講し、さらにテストを受けることが、英語力向上への第一歩です。

――牧島先生、テリヨン先生は、今回の学生のTOEIC SWテストのスコアを見て、どのように感じていらっしゃいますか。また、今後TOEIC SWテストをどのように活かしていきたいとお考えでしょうか。

牧島教授:今回の受験では、留学生の活躍が目立ちました。その中でも、Nguyenさんはスピーキング150点・ライティング170点、Juさんはスピーキング140点・ライティング150点、Seideさんはスピーキング180点・ライティング180点と、初めての受験にも関わらず非常に高い得点でした。就職活動の際、求められれば今回のTOEIC SWテストのスコアを提出したいと言っています。

テリヨン准教授:今回TOEICテストに加え、TOEIC SWテストを実施することで、学生の英語力の別の一面を把握することができるようになりました。スコアで学生の英語力向上度を測り、分析していくことで、本学の英語プログラムをより良いものにしていけると考えています。両テストを受験する学生が増え、データが蓄積されていけば、指導にも活かせるようになるでしょう。

――最後に、英語を勉強している理系学生にメッセージをいただけますか。

テリヨン准教授:理系分野において、英語はきわめて重要です。英会話力、学術的な英語力、どちらも世界レベルの研究を行うために必要です。というのも、みなさんの研究をより良くするためには、英語を通じて人々と意見を交換することが、プレゼンテーションを行ったり、聴講したりすること以上に、非常に価値があることだからです。国際会議の合間のコーヒーブレイクなどの場で意見交換をすれば、プレゼンテーションを座って聞いているだけでは得られないような、自分の研究への洞察力やアイデアを得ることができるでしょう。学会参加の意義は、このコーヒーブレイクでの意見交換にあると言っても過言ではありません。

牧島教授:理系にとって研究の質の高さは何よりも重要です。優れた専門性と英語力を兼ね備えた、グローバルに活躍できる人材に育って欲しいと願っています。

＜2008年5月取材＞

Copyright © 2008 by Educational Testing Service. All rights reserved. ETS, the ETS logos and TOEIC are registered trademarks of Educational Testing Service in the United States of America and other countries throughout the world.